

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000440		
法人名	宗教法人 真正寺		
事業所名	グループホーム・ハーモニー		
所在地	北海道小樽市長橋2丁目19番28号		
自己評価作成日	令和2年2月28日	評価結果市町村受理日	令和2年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。
基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvosvoCd=0172000440-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和 2 年 3 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、宗教法人真正寺にて経営を行っております。仏教は「すべてはご縁によって起る」ことを説き、ご縁を大切にすることと教わられます。全ての頂いたご縁は、私達の都合を差しおいて正面から受け止め、前向きに生きることと勧めながらケアを行っております。
お一人お一人の個性や気持ちを大切に、何事もご縁から始まる事ですので共に協力し合いながら生活を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームハーモニーは、生活に利便な商業施設が立ち並び幹線道路にほど近く自然環境豊かで静かな丘陵に立地している開設17年目を迎える3ユニットの事業所です。仏教の教えから創られた運営理念の下、職員は日々真心込めて支援に当たり、人生の終末を支えるターミナルケアにも尽力しています。管理者2名は職員との情報共有や連携を密に出来るようメールを活用したり、遠方の家族等にも利用者の様子を見もらうためにブログを発信しています。また、其々の特技を活かし行事での豪華な食事作りや施設内外のDIY、利用者が喜び楽しめる企画を職員と相談して全体及び個別支援を充実させています。ひとつ一つの行事を豊富なアイデアの下、大切に催し、新年会、夏祭り、敬老会、17mの流しそめんなど恒例となっています。また、利用者の心に届けたいと二胡やオカリナ等の奏者を招いた演奏会が催されています。町会や地域等とも良好な関係であり、相互の行事やイベント、困り事にも助け合い温かな交流が見られます。入居時に本人の表情の表出を少しでも増やして欲しいとの家族の願いを受け、声かけや興味のある事でサポートを引き出すようにしたり、更衣自体も難しかった方が洗濯物を出せるようになるなど、本人の安心できる暮らしを支える介護計画を作成しており、機能向上に向けた支援に優れています。看護師の配置や同法人デイサービスとの連携、食事や外出の支援、排泄の自立支援なども特筆される事業所です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	宗教法人としての根底にある考えを理念として作成しています。又、理念はユニット内に掲示していますが、理念について話し合いをあまりしてなく、共有し実践にはつながっていない時もありますが、つながる様に心掛けています。	地域密着型サービスの意義と役割を分かりやすく言葉で表し、重ねて4つの仏教用語を基にこれら理念を標榜しています。理念はパンフレット他、事業所内の要所に掲げています。理念についての新人教育は、職員の支援の様子などを鑑みつつ、一人ひとりに応じて行っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所自体では、年に数回の近隣清掃を行っています。町内会からの行事の依頼を受けて参加し協力も行っています。	地域を始め小樽市内で行われる祭典に参加しています。町内の子供神輿が訪れたり、二胡・オカリナ・ピアノなどの奏者を招き演奏会が催され、事業所行事に町会の方が参加する機会もあります。運営者・管理者は町会行事への協力依頼に応じたり住民の生活を援助する活動を行っています。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所からはありませんが、地域の方から依頼や相談がありましたら、知識を活かしていきたいと思っています。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会議では、色々な報告をさせて頂きながら、皆様から大変貴重なご意見を参考にサービスの向上に活かしています。	年4回は事業所行事に合わせ同日開催し、サービスの取り組み状況等のモニターを得ており、当年度は計7回の開催です。事業所夏祭りではメニューへの意見を取り入れ食材を変更しました。会議案内や議事録は関係者全員に送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請等で必要に応じ、利用者等の事で介護保険課や生活支援課と連絡を取りアドバイスを頂いています。	市の各担当部署へ運営に係るアドバイスや書類整備について意見を仰いだり、集団指導で得た市内グループホーム全体の事故発生状況データ等を当事業所の事故対策委員会で報告し、課題解決に繋がっています。食材等の寄贈など社会福祉協議会「たるさぼ」の協力もあります。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外の研修で学び、身体拘束をしないケアを理解し取り組んでいます。現状、身体拘束を必要としている方はおられません。ですが、地域の環境上の問題(近隣に精神科病院)でやむおえない場面もあり、夜間は玄関に施錠を行っています。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、3ヶ月に1度身体拘束ゼロ委員会を開催して運営推進会議で内容を報告しています。また、年2回これらに係る内部研修を実施しています。また、申し送りなどの機会に事例についての意見交換を行っています。利用者の状態変化に応じ、今後発生しうるリスク等について家族へ伝えていきます。玄関は夜間のみ施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修で学び、職員間でニュースや事例の意見交換を行い、お互いに虐待を見逃ごさない様に注意し、防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用されている利用者はいませんが、学ぶ機会をもち理解した上で、管理者と必要に応じた話し合いを行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、不安や疑問等がありましたら気軽に連絡して頂ける様にしています。その際には、理解・納得していただける様に、何度でも説明させて頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は運営推進会議で報告させて頂き、その内容を外部にも分かるように玄関に掲示も行っています。	利用者からの運営への意見等は難しいものの、日常的な部分で「床屋に行きたい」「ラーメンが食べたい」など要望を受け個別支援にて適宜対応しています。家族からは人員不足で多忙な職員を案じつつ感謝の気持ちが伝えられていますが、管理者は家族の心情を察しながら求めている事に応じて行きたい考えを示しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、意見や提案を聞いており可能な限り反映を行っています。	管理者は職員とのメールや面談を行い、意思の疎通や情報伝達、情報共有をスムーズに行い、職員一人ひとりの相談にその都度対応しています。職員から洗面所を車椅子仕様にとの要望が出され、管理者自ら対応型に改良しました。また希望休制度や資格取得等への助成等があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況を把握した上で、可能な限り職場環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を受けれる機会があり、働きながらトレーニングしていく事を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同業者との交流する機会は少ないですが、研修会などに参加した際に情報交換を行っています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で少しでも不安を取り除ける様、本人と一つずつ話し合いを行い、安心して生活できる様に関係づくりをしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の希望や不安を聞き、出来る限り御家族の負担にならない様に、協力関係づくりをしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族が必要としている支援について、一つずつ理解を得ながら、サービス利用の対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の個々の能力に合わせて、家事のお手伝いをして頂き一方の立場に置かないで、コミュニケーションをとりながら、暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、お手紙で状況の報告を行い。面会時には現状や変化をお伝えしています。又、遠方の御家族には電話にて利用者とお話をして頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前までの馴染みの人や場所の確認は行い、関係が途切れない様に支援に努めています。	以前近所に住んでいた友人の訪問があります。趣味が釣りで船乗りであった利用者と港へのドライブ、母校巡りのチャレンジや商店を運営していた市場へ出向く機会等設けています。家族の相談を受け、孫の札幌での結婚式・祝賀会出席のため同行支援を行った事例があります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様に席や場所等に気を付けて、共に楽しんで過ごし支え合える様に支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了された本人・家族に相談などを受けて、必要なフォローを行っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向の把握に努めていますが、意思疎通が難しい利用者もいますので、家族を交え検討をしています。	日常のコミュニケーションの中で本人に確認し、把握した内容は申し送りノートで情報を蓄積しています。発語が困難な利用者については家族と検討を行ったり、表情の変化や思いが表出されるように声かけを行うなど思いの把握に努めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に入居前までの情報を共有し把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや、一人ひとりの現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや担当者など、個々に意見や相談を行って作成しています。	1つの事例として在宅では更衣が出来なかった、また洗濯物を出すことが難しかった利用者がこれらが可能になったケースでは、本人の日常生活動作を高める事を目標とし介護計画に載せていました。本人の暮らしやすさや安心等に向け職員間で意見を出し合い、家族の想いも反映させた計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送りで情報を共有し、出来るだけ具体的、客観的に記録し見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに対して、柔軟な考えを持って多機能化しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源を十分に把握した上で、安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るようにしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からの、かかりつけ医の受診を継続し、変化が有りましたら報告を行い、適切な医療を受けれる様に支援しています。	馴染みの医師による継続的な医療を受けられ、職員による受診対応や定期または必要時の往診態勢を整備しています。看護師が配置され、健康管理支援を行っています。医療内容は病院受診確認シートに記録し、医療内容等に応じ家族へ報告しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	記録や申し送りで情報を共有し、日々の状況を報告し相談を行い、アドバイスを受けています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、安心して頂ける様に頻繁に面会に行き、その都度、状況の説明を行っています。又、関係者とも情報交換を行い早期に退院が出来る様な関係づくりをしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	早い段階から話し合いを行い、希望通りの支援を行っており、主治医からも緊急時の対応指導を受けてチームで支援に取り組んでいます。	「入居者の日常の健康管理・医療連携体制・重度化した場合・看取りに関しての指針」「看取りに関する同意書」を整備し契約時に説明しています。医師の判断に基づき関係者間で合意形成しターミナルケアへ移行しています。調査前の2年間で3名、現在2名の支援に尽力しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で訓練を行い、マニュアルなどを確認して実践力を身に付ける様に努力していますが、忘れてしまう事も有ります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行っており、近隣のグループホームとも災害協定を結んでいます。実際に災害に直面した時の不安はあります。	年2回日中・夜間想定で火災避難訓練を実施し昨年3月には消防署の指導、協力を得ています。災害マニュアルを整備し、発電機を含め災害備蓄品を確保しています。胆振東部地震の際には町内の方々の携帯充電などの援助活動を行いました。	初動態勢の違いにより、地震から火災発生 of 想定下で避難用救助器具を用いた避難訓練を行う計画がありますので、その実施に期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しながら、安心して生活が出来るような声掛けや対応に心掛けていますが、忙しい時に乱雑な言葉遣いになってしまう時があり、後から反省する事があります。	職員は理念の1つにある「職員皆があなたの友達そして家族です(同朋)」にあるように家族的に親身に支援を行っています。管理者や職員は人手不足によるゆとりのある無し、事故防止の観点でやむを得ずの声かけ等についても謙虚に振り返っています。個人記録類は保管場所を取り決めています。	接遇でのグレーゾーンについて学びを深め、今一度介護職として相手の立場を考える等の内部研修を実施する意向であるのでその取り組みに期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	バイスティックの7原則を思い出しながら、自己決定が出来るように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	人員不足も有り、職員の都合を優先する事が多いですが、出来るだけ希望を聞ける様にしたいと思っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、利用者に選択をして頂き日常着の交換は行っています。選択が困難な利用者には季節などに応じて決定させて頂いています。が、おしゃれまでには至っていません。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けは一緒に行っています。食事中に会話をしすぎて咽てしまわれる方もおられる為に、適度に職員が間に入って楽しんで食べて頂いています。	通常はデイサービス事業所の献立を用いています。季節等の行事食はユニット毎で特色を出し、おせち料理、ビュッフェ形式や希望に合わせて寿司や弁当、誕生日にはケーキを添えています。蓬餅、アップルパイなど手作りしています。流しそうめん、レストランでの外食など食の支援が多彩です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせて、食事形態で提供し食事量や水分量のチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア時の見守り・一部介助を行い、介助の必要な利用者にはスポンジを使用して、磨き残しが無いようにしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを把握し、時間を見計らってトイレへの声掛けを行っています。おむつの使用量は減ってはいません。	職員の声かけやトイレ内に分かりやすく表示を行う事で汚れた時に自分でパット交換が可能になったケースがあります。衛生用品類はかぶれや熱が籠るなどのリスク等もアセスメントしています。排便状況の確認は看護師が主となり行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、乳製品や体操や下剤、浣腸を用いてコントロールするように取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	午前・午後の入浴を決めて頂いたり、入浴中は会話を楽しんで頂いていますが、職員の都合で入浴して頂く事も有ります。	日曜日は行事等で入浴を控えるユニットもありますが、基本的に毎日対応が可能で午前・午後などの時間帯や利用者が職員を指名する事もあり、可能な限り本人の意向を尊重し支援しています。使い慣れた湯道具や好みのシャンプー類など自由に使えるように配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	重度の方には早めに休んで頂いていますが、個々の状態に応じて自由に休んで頂き、安心して眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬管理書に説明を付けて、薬の内容の把握する様に努めていますが、全員の副作用等は把握していません。状態の変化があれば、医師や看護師に相談を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみ等、個々の役割で手伝って頂いたり、レクリエーションにてゲームやカラオケ等を楽しんで頂き気分転換をしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と一緒に掛けられる利用者は少なく、職員が同行して行事やドライブで出かけていますが、回数は減少してきています。	散歩はお寺・畑コースがあり、買い物はスーパーや用品店へ徒歩で行く事があります。ユニット其々に外出行事を企画し、また個別支援にて出かけています。市内・地域の祭典、祝津ドライブ、パノラマ展望台で海の景色を眺めたり浅利ダムでの紅葉見学、南小樽市場、行きつけのワークショップなど、法人車両の協力も得て外出しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族・利用者と相談を行い、少額を所持してもらっていますが、殆どの利用者のお金の管理は施設の方で出納管理を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されて、自由に連絡されている方や職員が家族にかけて利用者と代わる支援はしていますが、手紙のやり取りは行っていません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレには目印等を付けて混乱を避け、季節に応じて飾りつけを変え、室温や光量の調整を行っています。	今年度、新しく庭を設置しました。共用空間のフロアは広く、窓からの眺望も良く自然の景色が見渡せます。リビングダイニングコーナーの他、ソファークーナーを配置しています。桜の木や葡萄棚などのちぎり絵、鯉のぼりの壁面飾りなど季節毎に風情を出しています。電解水噴霧器や洗面所に電解水装置を設置しています。また洗面所は車椅子対応型に改築しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファや食卓テーブルがあり、自由にレクリエーションやテレビを見たり、雑談を楽しんだりして頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、好みの物や仏壇などを持って来て頂いて、使いやすい配置にして、本人が生活しやすい居室作りをしています。	居室入り口に名前を表示したり、自室と分かるようにしています。室内は整理整頓され、利用者の動線に配慮しています。馴染みの家具や調度品、愛着のある品々、家族の写真が置かれています。収納家具に用品名のラベルを貼り、混乱がないようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には障害物を置かない様にし、混乱を避ける様にトイレや居室の表札の文字を大きく掲示しています。		